

繪本
敵討

岩見英雄錄

第二

貳

遠

2509

35-9



遠
2509
卷 35-9



繪本後仇英雄録後編卷之二

若松右平合孝子端岩見重花絶命話

おも若松右平は石見重藏足妹とのついでに園方右湯門承乳も
ろもよ。我家へあるはく付ひぬ里。あまきさうなりす余の者に
と心を得させ早く人を乞らせし。傷醫を請へて重症は治癒
し。且酒飯の設けざる。人を待たせし。實小くうらむ見る
し。永乳大志懐び園家の者小そきく。謝辭をの(お)もは兄
妹乃弟上世も悼りきさるぬ。各心を付く。身抱れみ入る
自然け家まで療養叶ひ難き事なるも。我れは度徳人とて。里
後難い掛は地万一も。左様の事もある。能きよ初めの事も
くもひ。呉れし。一通の籠文成る。又別小金子十両

後仇英雄録後編卷之二

保くを平小与つる。平その重子其私より更なる所由も
なくい孫中の清多小い。故らな事清用意然る事一とに度せ
八百右清門これ我寸志誠表せり。故り何故納めしきと再三
強て勧めも。固く辞し。更ざれば。永敷もその使業と感らる
ら。猶詞を竭。必竟け。西人の孝子の費用小是罪く。致事
重中ろうと。漸よるめ。然て嗣子小向ひ所め。故り
力成落し。然小。令兄假令死去るも。我必し。故
度の主用を果し。一臂の力を助く。外小。子
兄弟の人も。同小。嗣子。永敷と伏せ返く。も。永敷
清長のほど。不中。限り。存。今一人の兄。重
高。包益。先年。武者。終。して。園。出。後。の。使

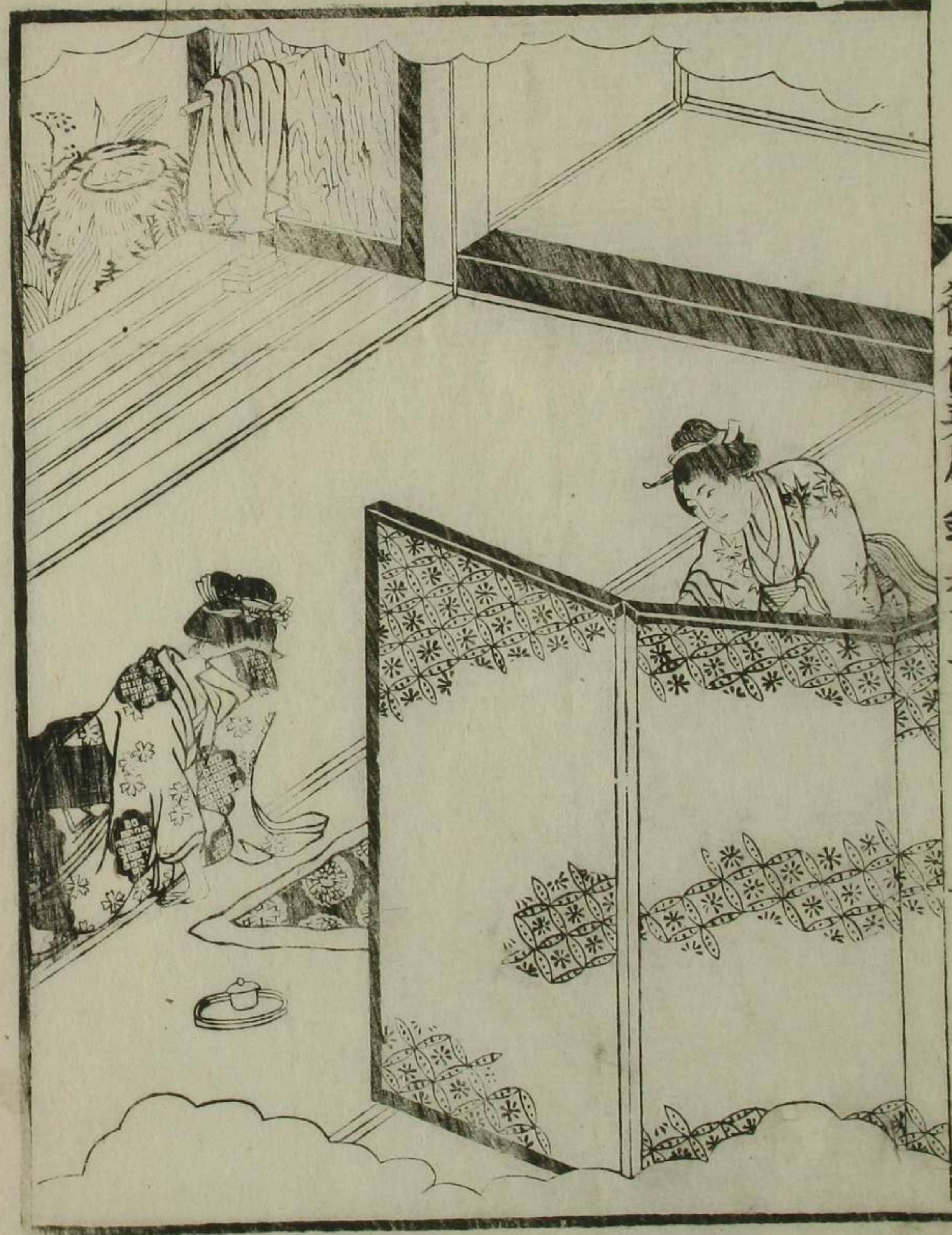
も。平。永敷。を。怒。め。我。も。病。了。一。更。を。以。て
君。命。を。今。は。一。の。用。事。と。為。し。為。さ。ば。一。條。上。復。令。一。事。果
然。直。小。此。此。来。力。と。為。し。若。も。舍。是。重。太。所。上。出。途。中。は
仔細。に。語。り。傳。へ。と。平。其。外。の。者。も。別。と。告。ぐ。也。
門。更。の。承。引。せ。ば。子。立。出。ん。と。せ。れ。ば。平。の。書。壁。一。点。の。清。用。小
か。り。其。夜。の。乃。其。也。も。と。る。日。の。朝。に。此。也。を。移。せ。給。中。
字。も。故。に。打。笑。ひ。た。丈夫。の。身。と。君。命。を。承。り。取。張。り。今。と
多。遲。滞。也。き。や。と。神。を。拂。ふ。と。是。お。り。云。也。が。忠。見。重。是
い。平。更。返。嗣。子。論。力。を。竭。く。看。護。小。成。可。ひ。と。せ。と。
許。多。の。重。創。は。容。辨。日。く。小。重。く。悩。む。物。ゆ。く。見。られ。嗣。子。い

文りり皆く大お愁ひ父小遠近の醫師成あり多先法一價
 と備せ良利奇業を投ぎせども其細も二十餘日
 二十四歳を一期し終に宿縁の夫小死せりはむに妹の思
 嘆いん方う哀慟人成勅らると亭主更書これとあり
 或ハ練先勅し只妻成恥けて旅觀を野邊小送せり假し埋み
 て葬せぬ鳴呼懐むべ一孝子志成累に眼を飲て毒子小命
 せ海せし是天於命於痛しをけらるたり嗣子更平更
 婦の情しむそれ中妻に籠りて見兼是代冥後を初り七回
 此忌禁も終行ひ居たりしよとさ公細き旅のそり時り
 室女のあり途小父の懐死しを續く母を失ひ哀傷つむと盡
 やらぬよ又もや見えぬ涙命に死したけきなき孤獨の身比人の情

の庇蔭小とせむ申すも也。往時ととら於小来日とを思し。い
 り代際くとも思ひ懐くも女子の本姓捨離りら母を拘苦し
 一倍人小誘りぬと只誓くして無悔追恨の餘り。や終に
 なき氣病を疎し。枕に伏し記す。惟松更書も甚かを
 痛め。我子の如くも。考養後力を困る。一方を。惟然バ
 根本皮の活きりに難きをのれひ。小繪のあり。よ。長き
 春は伏懐く己は守年の月日。改過しり。元来けむの至人推
 松平平のまき時。至。腫星あり強暴の徒を挫き。孤弱の人成
 掛け。人の強徒と領る。味小を力成。錫以。任使の質あり。多。は
 取謂子小鬼方の者も人のを顧も。海りし。ん中。い。家。と。多
 とも。又。負。き。も。多。り。ぶ。り。ふ。去。年。の。き。よ。石。見。重。飛。足。妹。と。か



復仇英雅録後編卷之三



亦は夏の女抱せし不幸小く兼是に重創小死し月もろく嗣子
の病急し固萬金諸門小致せし大切の人なりと云。言價の良薬を
夥しく用ひ且類は良工名醫を連く及の遠近をへり加之
僧道亞祝の祈禱の料をんと費用甚し人をして殺せり及之
るに彼固永頼が託し垂ける十支の金子とく彈果といひり
家具悉財も漸くは沽却る賣しぬきもその債を償ふは是
がれいんともせん粥湯を煮居るをり

稚松史婦義氣誠苦計話

斯くも海を遠近の債主より其史を借を督促てやまされば
右平史婦身病臥る嗣子不字せし知せしと。その公堂をふ
斗り。嗣子の病の万小難思ひ思ひ居る女なりとも或主の家をせ

此際し母の父の仇をもりさば佐小思ひ塞まき病死しハ
幽冥して亡父母に何と面取あませ糸う以て登きりて主人史
娘れを直も水の泡と成しそのぎ取や何の中自和く死す
と控一途ふれを効し公を控し保表意らばり母と久根の
業別り初驗も始る及子想をしりや日成進へて精神自
然健ふ吹りけき漸くは漢をほごはけりけりけりけり
おふ。いかに我を深く恨し。史婦ともいけりけりけり
るのせし。こい我を公を痛させしとのむるべし。世縁和好も
きりかんに去あしうの情を及亡兄上や儀の身上乃おまよ
里勢を吹りけりけりけり。ひ恩お報せり。ぬもつくと独
分よあひ遠隔しけりけり。或は史團ふけり。月曜きり。月曜

けりゆは、固き必以、疎めむ。じと、あひ包む。わを、我一箇の、綱と
つひ、外なる、心、整、少の、資、試、齋、し、ゆき、賭、博、傷、ふ、り、思、ふ、程
贏得、た、ま、を、得、ん、ま、立、降、ら、ん、と、あ、の、ま、言、ひ、終、ら、ぬ、ま、言、ひ、其
發、此、こ、い、所、情、の、こ、と、成、云、終、ひ、そ、使、者、と、人、は、稱、ら、ぬ、信、義、を、廢
く、ま、と、以、誠、惶、神、小、誓、禁、を、破、王、神、と、さ、一、欺、き、終、ら、ぬ、や、あ、る
や、さ、ま、輸、贏、の、定、出、難、き、賭、の、た、は、中、ま、ま、ふ、正、取、き、事、し、ら、ん、て
利、運、の、あ、る、ま、や、神、の、恩、の、濟、産、せ、ら、ん、抄、憂、月、を、そ、終、ら、ん、そ、こ
に、西、を、付、け、や、と、言、を、獨、せ、ま、ま、ひ、差、備、し、若、松、も、た、れ、ど、一、已
利、欲、の、私、り、い、神、罰、の、恐、も、つ、浮、世、の、義、理、と、人、の、為、小、あ、る
り、い、心、邪、意、も、情、と、垂、終、ら、ん、と、あ、ひ、が、今、ゆ、が、中、如、く、實、に
是、れ、我、誤、り、なり、然、し、く、代、は、せ、へ、術、じ、と、思、ひ、倦、み、て、紐、切、腕、と

の、び、く、傍、り、も、執、行、の、時、き、乃、燈、火、屢、挑、ぶ、く、譚、へ、と、燈、花、徒、は、錯
ぶ、の、ま、誰、が、表、び、試、報、ら、ん、お、ろ、遙、く、野、寺、の、鐘、乃、又、更、を、告、る
あ、ら、小、ま、婦、身、驚、ら、ん、夜、の、明、ら、に、い、程、も、は、い、さ、誓、し、終、ら、ん、と
各、枕、よ、就、あ、ま、り、り

嗣子自謀容身被邪話

嗣、児、不、恙、も、推、松、ま、婦、が、保、長、の、高、議、を、守、に、密、細、小、次、聲、て
私、る、治、令、よ、る、れ、ぞ、も、萬、籟、俱、寂、午、夜、後、を、身、も、も、に、建、後、る
い、る、ま、奴、が、事、の、山、頭、末、概、先、聞、ど、り、く、大、は、驚、ら、ぬ、お、ま、を、ひ、ほ、ど、す、り
疑、ひ、あ、り、し、露、露、た、り、ま、ぬ、け、家、の、ぬ、り、り、ま、ま、婦、の、心、の、内、こ、痛
し、り、是、牛、く、び、ゆ、なる、字、跡、あ、る、遊、里、の、事、舍、ま、れ、業、を、二、度、の
勤、と、や、ら、ん、よ、着、く、し、乃、以、試、斷、南、せ、く、居、る、處、地、や、い、て、儂、身、を、も、い



副子 源およ
 雅松
 更婦が
 密話
 を聞
 く
 場



く世色の警り宇都宮賣りけ愛を救ひりい年未の恩
 報に二つはあその字於を繁昌の成下りて武者行行
 出給ひ一見上は過を遠まの流るも有ん三つは仇の踪跡
 と探るも曲中無多の人の出入りきいづるを清合使あんと仇
 三人昔も遊里はあまむ欺た恨成報ふ業もあべいと必定
 多明る新舎主支婦ふけはと言あんとせうがやく今急は初
 と語りらむさうい世未の高嶺を漏はせりやを悟り初る老突
 の性る世は支婦も中へ承謹いよほまじはくさるる事とせ
 何れやまきと一日二日成る一と後舎主支婦ふやりの儀をまき
 病は悩は二子の性も一歩四の力とあぬやの感これ深ま
 中斗もあふ娘しとせいそ色は清き隨意なる事於賢者

はれも度事の由度し何年今誓の回折く出遊びく
 を堪ゆ中へ一入氣も清なるにぬははんとん女子の為とて鳴呼
 がぬしや中のと定めく笑ひあはれも恥しとひも我かうとあ
 の為とて人か賢支婦のやうき水かは娘も保ぎ中あはると
 るる平何れたあはれ程の清りも併ら若き娘子の出遊
 の出りも給あはれは飽り好むすれとてふも大切の御身御病後
 此清保喜かれは尤も悔くは去かろ人立多きあはる御遠處
 あはれ中をあはれし事なら若もといひつ世色もあはれ
 眼成死うと低き娘は彼三人の流けまては緋細くもあ
 も知るは下一見惚めらむわの御男上小忽ちつらる禍の出ま
 せんも剛り難しとせう調子もあはれは厚く深切るも孫め

辱く此座に於ては、僕又母の許に在りし時、浴室の房に
の居るあは出遊、さうり、室内にも外廳にも出ず、偶
侍婢どもと着座、隔てて人並に居るは、方々見知りあつて
も、彼方を見、又小見おぼえある座、はる年の冬、板橋の曠
乃の事、あつたも、始先遠目、王彼徒を見、若やそとせと、思
に、兄の是子、強ひて、指差し、降ひ、暫く、森の中、宿居
る、あは、色ど、餘り、を、許る、其、場へ、を、出、時、を、子、晴、下
て、互、面、成、見、難、き、母、の、事、を、を、き、宛、を、彼、徒、の、知、り、も
僕、平、素、に、此、二、人、を、能、く、見、え、く、ゆ、り、色、い、一、つ、を、き、以、二、人、を、取、扱、ひ
る、二、つ、を、さ、る、年、或、者、彼、子、出、今、一、人、の、兄、を、を、席、も
迫、り、遠、く、も、や、と、公、の、樂、を、守、り、給、り、れ、と、あ、ふ、右、平、い、大、安、堵

一、た、も、い、い、を、愛、ひ、も、い、い、深、き、あ、ら、む、極、の、所、理、あ、ら、む
女、房、高、と、女、日、志、今、日、月、和、乃、互、一、色、い、後、く、と、何、変、り、り
も、お、せ、ら、僕、も、所、付、ひ、あ、つ、る、を、度、い、は、天、都、を、所、を、も、あ
る、べ、り、れ、ば、あ、る、義、に、せ、改、め、る、色、海、を、給、ふ、を、帝、の、御、遺、の、所
意、と、樂、し、ま、さ、ん、と、然、れ、文、を、お、細、く、と、公、と、着、る、ま、の、深、切、に
鬪、子、い、恨、ひ、午、の、頃、お、頃、より、さ、女、も、も、も、宿、所、を、出、そ、と、い、所
と、ろ、く、道、遠、く、業、祠、子、請、く、い、公、書、を、兄、色、を、迎、り、逢、ひ、且
又、の、ゆ、を、復、さ、せ、給、一、と、お、ぎ、野、寺、を、迎、り、て、い、と、親、兄、の、眞、後、を、お
り、け、も、人、を、集、り、お、く、と、意、成、着、て、親、ひ、か、中、に、お、す、と、言、れ
や、ぬ、と、海、を、川、次、の、日、も、す、と、付、ひ、出、く、午、の、日、早、く、海、を、お、好
り、お、り、肉、も、お、好、ま、う、と、お、子、を、何、れ、と、物、言、ひ、ひ、兄、を、重、た、る、の、上、へ

或蘇方御所の事るれば定めて於會此地を別々細細運送
 のことあり然らば當玉も蘇方呂の城下かや中方の如くを限
 年儀の棟閣は名をも守せ給つれと同も申き此更といはし不
 宇於宮の形勢を委し守りつれば今い支婦云恩報一
 身を齋房のは紙紙らんとお成忍合を居多るを強うにけ遠
 のゆ年穿さつにけより嗣子を垣間見す其の艶色をかさと
 らし膳お酌者おり色とも使客君松平が家の賓客るる
 又帰つて中容易く去る者も立ちましよこの一二日権松が家の
 言女ももにけりそお出所の容姿の妖素く綽約るるを
 見るほやよ流石は右平の妻の付儀居るよそまよふ正明さ
 もせよしが其後使臣成雷先く艶語御字成通いせもまよふ

ら孫も宿望ある所の施す是等の事を願ふともはし言女かこの
 有故を能く知て支子語り私ふ嗣子が懐春のころ女は浮華の性
 奴らぬを感へ居り一日嗣子に七兄兼足が忌目ふあまされれば道
 き急よ假子塵撲一地を墓すやせしきおるれば言子又も
 や右平は掻口説く身の暇を給り二度の勅を出け程の客居
 を廻れぬらと乞ふも右平も是と團万廣門の音信を給ち
 若も永執事あるも免も角も相謀るももあはしとあひらとも今も
 知るそをゆはをすげ遠路とひ仕官の人の云技カよ暇かききと
 思ひ多るも御王ふはく雁魚の使も有されれば外は詮方をと案
 みるひ今い百計獨一時奴は不役りも暫の辛苦と勉むをば
 形むれをばさる人使者と稱し是男の妻と賣りて再び花柳

翻子
言女
散りの
圖



美人の生涯の物語



美人の生涯の物語

二投ることを實にお貧困の減はさよとありても藁を切らさるるに固と
 流しつるも事も健康よいつい暇がう分のり来とまのを根おひきれ
 ず諸君も坐し遊しと狗塞り包むとせれぞせき来候すれ居る
 不は嗣子専門より進みつり共今悔りいと望み着はけ方へ警
 戒固を隠しさけぬ俾ふもてらせ中慈の趣を怜くも思てお
 更婦子對ひ又もや僕の驕意と早親路り人も恥うしるるあひ
 ひ清火改めり二字へ所教にあまうつづりし事の扱子いあうぬ
 僕のをよ深く移りするもやなしくは後日人の噂言及ぶ字於
 官とやんの花樹を何やを僕さなふさせき結つれと言も果ぬよま
 帰いたおとる起何おなたいの御やと同家不嗣子能きばくぬ永
 一そ又母は進ひあて一兄の吊ひも致し度いりうとつてお平

お笑ひこい怪るるに成云出流ふか史書の子い如何扱めを成
 以べ一必ひさるるの事小幸と痛り後子盛うらぶと為むらうぞ
 嗣子候と流し重祿ぐの厚き所志せぬ解りとりあも初めし
 真加の何やも忍所しくそんいせめり又母兄いさうり存弟の勤の
 端もとあひ定め一僕が志何もは情子立させ流つれとあやら
 是ともお平史一と兼列む言女をさく共け程より内りとの扱
 ども成よく見らひく固怜惻性也一守於家の子ども取く繁
 華の想と好むさせ流す也一何をらく水話の次は花樹の馬扱を
 もや出は也一何ぞおき所をふやさしくも思し付流けりならむ
 清志のほや難有とふ水流し喜び入ていふも大事りら
 山芽成若海は院めまへりまらうり子のりかうべ我くけ扱ふをさ

昔よりや人より一とさるる隠し隠しと云はれどいふに
 弟に賢さ令嬢ふ刃は守はし恥しさを教う赤らぬのふ
 る祥の端を右平法さとりたもつる程のふらり浮き固
 右衛門様より親で多し一清身とほ壁へは男の如く
 ぬらりとも恥を知らぬ斗ふ世の人ふに引く面を對
 をととま姉法を種く詞を造り又唱皮の刃上の子状
 態の失意命窮厄の苦しき限り始終全うざるの情状
 と言ひ數々或しの満しつ諫むまども嗣子文は後子
 無くこそは皆亡親兄一乃報恩追孝にありその故を
 懇王とゆはれ使もあづく今一人の兄を赤く不
 その内一は武士の客人と見たりと云はれ武藝面力の

智意深く公探れもき人あつて色も不託けを公魂を
 一上能くともやと力と頼り命一に尤緊要の大事
 困りぬるおのれ系頼ひも由座一は國氏の刃くさ
 速小儀不告知せ流りかね彼人へ儀よりけ伏委
 中へし内身よりもけぬは誠小物預りわらひそ
 んや地を程は納流りぬものねふかほせと思ひ
 の覚悟は不物を忘りしをいふと云々
 切あるそ風情は雅松も真を確し持解りたるが
 史は向いあはれや追小令嬢の事を別々宣ふとつひ
 ひ一子の叶いぬば又もや鬱悶の端を引出しわん
 鄙儀よふ角をいさんとしや半代殺しの壁へもい
 十五

屋の妻が以前の好もあつた能く主支婦も公を艶しき情深き人
 かまはれなくおぼえられ智のほどもせんうねりの假娘子も準く公
 を付次弾歌舞の技とすも酒筵の真をたふ添給ひてそのに
 枕席奉とさせりさぬ取ふ計も其その肉もまろくは如何
 と購ひ出し兼てせめていぬんとすも平も改と願ひ沈吟し
 て居るやうがそを詮方なく合懐のたやがの所志りさばけ上
 り如何物も仕るべしと漸く肯ひりるを嗣子の大い悦び見
 幻きより糸竹の調へ歌舞の夢も甚く拙くいふも神もの
 色も紫いりの使ある小進一以上二日も早く計るは後れや
 勇むる我支婦も終る為見得むその用意も及びり

嗣子身落狭形話

今夜も高女の嗣子の詞に任せ縁外のおくべ成すふあふ
 優くその技特は妙曲あり歌人等ももろくもまじく憐む
 く。累乃屋を飛り重ゆく雲をも過ひるやまじくは子に公發
 多程も大事の秘探も成同試し一息の得あるも是を以て僻を
 異中の周節小岡むも曲造は味を容る不ろくは子もやそ
 その三味線と捨抱きも此曲一き事ろくは妻曲中と出りし絶て
 久しく再びそをいふ所も稀くは子も特に拙るも例は
 成合始よりと継け物その鷗の音ねそ鳥もよきと長くは
 所別をが智一の所名流ハハ何れおせ給へし所舞小
 合せりや一曲歌さよ由せりさんとあめあつて琴もつら
 猶思も昔の余韻撥音優く長歌の節も合せりあそふ

葵の香の二さし三曲花の香も砵狂蝶の風も吹く態水の面蹴
 群燕雨に帰る燕あり進退周旋度々度々ぬ彼大真の電
 裳の曲もつらむ飛燕が掌上の香もいさぎを平身さきし一瓶
 の酒も四五杯の香を携へて厨下より来た居るが曲果ると月々
 嗣子に向ひ武弁家は成長法に御力をそそぎき入たる御嚙
 けり乃業は長さを法より身宇都宮へ即せ法よりも心身を操
 さぬ高儀の甚か易し新程候りきりあるまきや明日の彼地
 五立城三浦屋へお儀王の山の前途御行ひ身御酒一盃百
 進ひや我くも婦も御別の山盃を賜るべとそむるは業も何
 く令娘の御嚙人は勝れぬるなり。程鄙しき時雑舞
 等の業は学べる難き事ぬる程も暫の内の暫古は紀市

時日のおとともつるべ。候にありるゆかり。妻と茂妹のしり入るべ
 何よりつけ便に宜しき山産の御公強く思百法を度しとある
 嗣子へ厚き志を謝し。これより三人品置り静か酒を酌らば
 何具と語らふ。右平忽ちお付の話し終る緊要の大事を
 志し居いひぬ令娘の御力なれ大なるの御形をいさば山身の獲り
 多く嚙むは不慮の備は用意しあらで身付はさう彼竹杖に
 去とも旅行人のお持ちを命じらる。紅梅倚窓の遊君歌
 娘の竹杖を携へて人の怪詔を招き却ち事を敗るなり。いふあり
 一くつらんとむそめきよ。嗣子へさう御言女も其首をよめ
 免やせば角や生きや三人も三思し讀む文珠の智恵も出や
 らぬ暫し伺も参り。推松もこと子を拍り思ひよるをたふ事

此有世世話言人を見と法と説けとやう三浦屋の主人と
 心我の目ハ訪ひあきお流極うか付ひく悔るべし其時子箇
 極くふとらひか必定か易くは事調ふる一物わたり阿字
 いとやとを令娘もよくおと得終ふべし細くととあ合せとお笑
 ひけ謀ひつて海をみぬとと彼人の性質はけ方不能徹なるとい
 云るがと業は向ひ海へ言ふ及ぶ我気性三一人更婦も知
 也一事故何とも仍し以説んことを公裏恥しきするれども武
 釋ゆかも方分ん彼方その手管り下と鉄とくおも深々
 ぬとハ否と納免ぬ此段ハと盡さ糸も楮敷限りある以て其
 後巻の首回ハ説べし

繪本復仇英雄録後編卷之二終

